令和７年度事業計画に基づく結果報告（１　旭川志峯高等学校）

１　学校組織（改組、再編等）

［学校経営方針］

1-1　生徒、家庭、教職員が誇りを持てる日常生活を構築し、「志峯で学べて」「志峯に通わせて」「志峯に勤務できて」よかったと言える学校を目指す。

1-2　次代を担う生徒につけさせたい力を育成できる特色ある教育課程を編成し、新しい教育を展開する。

1-3　ＩＣＴ教育の充実を図りさらに教員一人ひとりの力を集結し、組織的かつ協同的な教育活動を行い、個別最適な学び環境を構築し学力向上を目指す。

1-4　生徒、家庭、地域、職員同士から信頼されるため信用失墜行為の根絶を図る。また地域に根差し、地域を拓き、地域に開かれた学校となるべく地域連携を強化する。

1-5　ベテランの経験、中堅の企画構想、若手の情熱が絡み合い、ともに働く教職員集団の協働システムを構築、向き合うのではなく、同じ方向に＜目標＞を向いて連携する。

（結果等）

・今年度は、二刀流・三刀流への挑戦を支える新エリア・コース（【特進エリア】選抜コース・グローバルコース、【進学探究エリア】進学コース・ライセンスコース・スポーツ教育コース）の２年目となり、教育内容の見直しと再構築を進めた。

・収容実員は 422 名（1 年生 170 名・2 年生 132 名・3 年生 120 名）、昨年度の収容実員（407 名）を若干上回る結果となった。

・今後も、本校のこれまでの伝統と教育理念を踏まえつつ、今後の国際社会・地域社会に貢献できる人材を育成することを目指して教育活動を展開していく。

２　教育課程

［各コース］

2-1　旧特別進学コース（3 年生）

（結果等）

・進学コースの最後の学年をコース担当者が中心となりコースの重点目標である国公立大学・難関私立大学への合格を求めて学力の向上に努め、北海道大学合格など結果を残すことができた。

・予備校とタイアップした講習や説明会を開催しているが内容が充実しているため、次年度以降にはさらに計画的に実践する。

2-2　旧ライセンスコース（3 年生）

（結果等）

・検定取得（全商・全経・日商）を強化し 3 冠以上の合格者が 8 名、日商簿記 2 級合格者も出るなど意欲的に取り組んだ成果を出すことができた。

・新ライセンスコースと協働して漢字検定を実施し、受験前の講習機会を設けるなどしていたが、欠席者が多数おり合格者も期待値以下であったことが課題である。

2-3　旧スポーツ教育コース（3 年生）

（結果等）

・体育祭はスポーツ教育コースの 3 年生が中心となって運営に携わり、円滑にイベントを運営することができた。

・水泳検定の欠席者が非常に多い状況だった。検定の欠席が成績に大きく影響するものとするなど対策が必要である。

2-4　旧未来創成コース（3 年生）

（結果等）
・北海道で 57 年ぶりに開催された菓子博覧会を見学するという貴重な経験をすることができた。
・「地域文化」「地域社会」を踏まえた実践をショクタン（色の探究）やモノタン（モノづくり探究）、三浦綾子文学を通じて、今年度も行うことができた。ただ、今年度で未来創成コースは最後になるので、このような実践が継続できないのは非常に残念である。

2-5　新選抜コース（1・2 年生）

（結果等）
・1 年生は自主的に家庭学習に取り組み、受験を意識した学習を行っている生徒がいる一方、部活動等を理由に勉強に対する意欲が下がり始めている生徒もいる。家庭学習を可視化するなど、お互いに刺激を与えられるような取り組みを検討したい。
・2 年生は進路目標が明確になり目標に向けて意識が高まりつつある様子が見られる一方、受験に向けて高い意識をもって学業に取り組む様子はあまり見られない。あらゆる機会を通じて受験生という意識を持たせる必要がある。

2-6　新グローバルコース（1・2 年生）

（結果等）
・今年度は、授業や放課後の International Club, EnglishCamp の実施など、可能な限り英語のみでのコミュニケーションを行う環境づくりを重視した。
・生徒には、授業内だけでなく日常生活の中でも英語を使うこと、また国際交流イベントへ積極的に参加することを奨励した。
・今後の課題として、2 年生ではさらに英語での発話や交流の機会を増やし、より実践的なコミュニケーション力を伸ばす必要があると感じている。また、生徒自身がより主体的に質問を考える活動を増やし、英語を使う実践的な場をさらに拡大したい。

2-7　新進学コース（1・2 年生）

（結果等）
・探究活動を進める上で、生徒の自主性を十分に尊重しつつもそれぞれの進捗状況に応じてアドバイスや支援を行う必要がある。
・探究活動へのモチベーションに大きな差がある。要因は人それぞれだが、その中で進学に対してチャレンジができる生徒を育成しながら、モチベーションのない生徒へのアプローチを欠かさないようにしていきたい。

2-8　新ライセンスコース（1・2 年生）

（結果等）
・1 年生はコースに分かれてからの半年間で「①課題設定②調べる③まとめる④発表する」という探究の基本的な方法論の流れを学ばせることと「資格を取る」という二本柱を意識し、年度当初の活動計画に概ね沿って授業を進められた。
・2 年生は商業科の授業内で各種検定を実施した。また、商業科以外の資格取得として漢字検定対策講習会・検定全員受験を実施した。

2-9　新スポーツ教育コース（1・2 年生）

（結果等）
・1 年生は生徒が将来就きたいと考えている職業の方々に来校していただくことができた。
・2 年生は高齢者との運動について、校外に出て高齢者の方々と関わりながら運動実践を行えた。また、障がい者スポーツについて、車いすラグビーやボッチャを経験することが大きな学びとなった。

３　教育環境

3-1　学習環境の整備として生徒机・椅子を３カ年計画で更新する。

3-2　図書室を生徒が交流しながら学べるスペース「ラーニングコモンズ」として整備する。

3-3　教室等の配置整備や施設設備の環境整備及び修繕に努め、安心安全な教育環境を提供する。

（結果等）
・職員室、事務室等 5 ヶ所にエアコン設備工事を行った。
・当初 3 カ年計画だったが全生徒分の机・椅子の更新を行った。
・電話機・コピー機の入替え、元生徒玄関の天井修繕工事、探究ルームⅠ・ⅡのＡＶ機器機能拡張、コンピュータ教室のパソコン等周辺機器類の更改等の教育環境整備を図った。
・従来の図書室を、多様なスタイルで自主的な学習活動ができるラーニングコモンズとしてリニューアルした。
・近隣にセイコーマートが建設された事により駐車場の整備が行われた。
・校舎の老朽化により、壁面の亀裂や破損、上・下水道の劣化等、修繕箇所が多数みられるため、計画的に工事を行わなければならない。

3-4　引き続き情報化ネットワーク及びＩＣＴ教育の推進に向けての構築を図る。

（結果等）
・今年度も ICT 委員会を中心に、1 年生への iPad 配布など ICT 教育の推進に向けた整備を行った。
・前年度に引き続き私立大学等研究設備整備費等補助金（私立高等学校等 ICT 教育設備整備推進事業費）を活用し第 2 パソコン室のパソコン等の更改を行った。
・高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金（高等学校 DX 加速化推進事業）が 2 年目となり探究ルームの機能拡張工事やノートパソコンを購入した。

４　研究活動

4-1　教育実践の推進のために、教職員の研修体制の充実を図る。

4-2　個々の専門性を高める研究活動を図る。

4-3　外部研究機関と共同した活動を模索する。

（結果等）
進学において入試に小論文が課せられている大学等は増加傾向にあり、就職に関しても作文や文章表現などを課す企業があるため、進路で重要となる「小論文指導」についての研修を行った。

4-4　生徒の良き自己実現の達成を支援する知識・技能を得るために、外部団体の研修会等への参加及び校内研修会をより一層継続して実施する。

（結果等）
発達障害についての理解を深め、生徒対応の充実・発展を図るため、臨床心理士の佐藤梓氏（スクールカウンセラー）をお招きし、「青年期の心性と教育相談について」と題し、教職員研修会を開催した。次年度も問題事案発生防止等の教育実践の推進に向けた教員研修会を実施したい。

５　生徒支援

［学習指導］

5-1　個別最適な学びに対応すべくきめ細やかな学習指導をはかり、基礎学力の定着と学力の向上に努める。その根幹には日々の授業の充実が必要。（公開、参観、教科会議の充実）

5-2　生徒の学力向上のため、教職員の実践的授業力を高める組織的取り組みとして研修派遣や研修開催を強化。

（結果等）
・教育課程の一部改定（新３学年）を行い、選択科目を設定した。
・各科目の進捗率については、固定時間割において月曜日の授業や午後の授業がつぶれてしまう傾向が高く、科目によっては大きくばらつきが出てしまった。可能な限り定期的に授業の組み換えを行い、できるだけ平均的な進捗率になるように調整する必要がある。
・リクルート担当者とオンライン会議で相談しながら、到達度テストを春・秋の２回実施し、それを朝学習として１学年全体、２学年進学探究エリアで活用した。
・昨年度の１学年で仮進級が認められた生徒の中で、規定日までに課題を終えられなかった生徒が出てしまった。最終的には期限に遅れたが課題を提出させ、進級を認める形とした。仮進級を認めて、課題が提出されなければ原級留置となり、年度の途中から１学年に所属させるということが現実的ではないことから、仮進級自体についての取り決めを検討し直す必要がある。

［生徒指導］

5-1　安心安全な学校づくりを目指すため、全教職員の一致した生徒指導を心がけ、服装、化粧の身だしなみ指導を重点的に取り組む。（社会性を育てる）

5-2　多様化する生徒対応に応えるべく教育相談、体制の充実を図る。さらに本校としての支援の在り方を確立。

5-3　複雑化する問題行動を適切に対処すべく、報連相を強化し開かれた生徒指導を心がける。

5-4　新しい学校に向けて時代にあった校則・生徒懲戒規程を考える。

（結果等）
・積極的生徒指導の励行について、所属学年を中心に玄関、廊下、職員室等で積極的に声をかけることで普段見られない表情が見られ授業に影響があった。
・担任→学年→生徒指導部と段階を踏んでの指導体制となっているが、現状は主任や指導部長が中心となっているため指導体制の周知・徹底を継続していく。
・懲戒規程について、制服の着こなしや生徒処置についてなど、社会状況、生徒の実態に合わせ、変更した。

［進路指導］

5-7　生徒・保護者の満足度向上を目指した取り組みの実践―安心できる進路指導体制、適切な情報提供、三者懇談の仕組みづくり、指定校推薦枠の獲得を図る。

5-8　学校全体での進路指導―進路目標達成のためには日々の生徒指導・学習指導と綿密に連動、挑戦させる進路指導のために情報共有や適宜の個別面談、小論文・面接指導は全教職員で行う。

5-9　学年・コースとの協働―今後の「総合的な探究の時間」活用の観点から、ＬＨＲやコース企画において学年・コースと進路指導部との協働を図り、一貫した指導を目指す。

（結果等）
・進学は例年と同様に一般選抜 7%、年内入試 93%の割合となる。「進路実績が生徒募集に直結する」意識のもとで学校全体における進路指導への意識向上と情報共有に努め、国公立大学への挑戦を目指させる水準での指導体制や指導力向上を目指したい。
・今年度も指定校枠の獲得に向けて動き、藤女子大学・桜美林大学・神奈川大学等の指定校を獲得することができた。
・就職は、今年度から「履歴書」のパソコン入力が可能になり、指導の負担が大幅に軽減した。3 年就職希望生徒は各自で取り組む姿勢があり内定を得ることができた。
・令和 7 年度の進路状況は、120 名中、87 名が進学（北海道大学・琉球大学・横浜市立大学等）、32 名が就職（国家公務員・北海道職員・北海道警察・消防本部等）し決定率は 100%となった。進学では、旭川市立大学・旭川市立大学短期大学部に多数合格したことで、国公立大学・短大合格者は 18 名となった。

［健康管理指導］

（結果等）
・歯科検診前の歯科定期受診の有無の調査は 2 年目。歯科検診定期受診未受診 70%（1 年 59%、2 年 70%、3 年 74%）となり、昨年と比較すると学年が上がるにつれて未受診の割合が増えている。
・保健室来室者数は減少傾向となった。繰り返し保健室に来る生徒の中に質問に答えられない生徒、質問の意図がわからない生徒がいた。
・感染症の流行を察知し、予防行動・対策の実践を自ら行えている生徒はいる。しかし、感染症を繰り返す生徒もいた。

［奨学金関係］

5-9　奨学生の種別としてＡ・Ｂ・Ｃ種奨学生のほかに、納付金免除及び奨学金年間２０万円を給付するＳ種奨学生を設け、本校への就学を支援する。

（結果等）
入試部及び課外活動担当者の積極的な募集活動により令和 7 年度の新入生は、A 特待 98 名、B 特待 8 名、C 特待 6 名を採用し、合計 112 名の奨学生を採用した。昨年度から S 種（A 特待＋年間 20 万円）の種別を設けたが該当者はいなかった。

６　点検・評価

6-1　分掌・学年ごとの年間計画を策定し、計画への取り組みを全体で共有する。また、総括として、一年間の成果と課題を明らかにし、次年度への取り組みに繋げる。

（結果等）
学年、分掌、コース、教科単位で年間計画を作成し、年度末の職員会議において重点目標や実践事項に対する成果や課題及び次年度に向けた改善策について協議した。

6-2　保護者対象の学校評価アンケートを行い、学校に対する成果や要望等を把握し適正な対応につながるよう努める。

6-3　生徒に対して、授業に対するアンケートを実施して授業の改善を行い、より良い学校運営を目指す。

（結果等）
BLEND のアンケート機能を利用して学校・授業評価アンケートを実施した。授業時間を利用し実施したため生徒の回答率は 75.9%となった。保護者の回答率も 57.2%となり前年度より 7%アップしている。今後も、アンケート結果を受けて改善すべき内容は早急に対応し、学校に声を寄せやすい体制づくりに努めていく。

6-4　評議員会を開催し、地域住民や保護者の意見を参考にしながら効果的な改善につながるよう努める。

（結果等）
教育に関する識見を有する方（学識経験者、保護者、地域住民等）を評議員として委嘱し、学校運営方針及び教育活動に関する評価について年 2 回の評議員会を開催し意見をいただいた。その評価結果を BLEND 及び HP 等で広く公表し、今後の教育活動に生かしたい。

［その他］

6-5　防災訓練等を実施する。

（結果等）
緊急災害時での避難経路の確認と避難場所への冷静かつ迅速な移動を行うことを目的に、避難訓練を実施した。当日は調理室から火災が発生したとの想定で迅速な避難が行われ、消防署の方からも講評をいただいた。

7　社会活動

7-1　自校への誇りを持ち、地域や社会に貢献しようとする態度を身に付けるため、地域連携、中学校連携を推進。

7-2　地域清掃や除雪等のボランティア活動（自主的活動、部活動等）に積極的に関わり、地域貢献を推進する。

（結果等）
・3 学年全員が進路活動の一環として永山地区、本校周辺の清掃活動を行った。
・硬式野球部員が、永山を中心とした幼児・小学生対象の「永ちび」という野球チームに、野球の指導を行った。今年度もボランティア活動を通して地域との連携が図られた。

7-3　学校単位としての「永山屯田まつり」への参加をはじめ、永山地区および町内会の諸活動への参加の機会を増やし、地域連携を強化する。

（結果等）
今年度も、全学年を対象に参加を募り、永山地区で毎年開催されている「永山屯田まつり」に参加した。女子バレー・柔道部の生徒を中心に総勢 55 名が「屯山(みやま)あんどん」といわれる、扇形をした弘前ねぷたの様な山車、楽器演奏、踊り子と 3 つに分かれ駅前通りや住宅地内の道路を練り歩いた。あいにくの雨模様となったが学校の PR を含め、地域連携、貢献等の機会の場となった。

7-4　学校施設・設備を地域の活動に開放し、地域との連携を図る。

（結果等）
野球施設、サッカー場、体育館などの運動施設を中心として学校施設を地域に開放した。次年度からは、より一層可能な範囲で地域との関係強化を図っていく。

8　国際交流

8-1　姉妹校協定を締結しているダーラーアカデミー校（タイ王国チェンマイ）と、オンラインでの共同プロジェクトやタイ現地での授業参加や文化体験を通し多文化共生マインドを推進する。

（結果等）
・ダーラーアカデミーとの共同プロジェクトとして、タイ文化と日本文化をそれぞれ融合させた「伝統菓子」と「伝統衣装」についてグループに分かれて制作、現地でまとめと発表を英語で実施した。 4 回のオンライン交流を実施したが、お互いの英語レベルの違いや機器環境の問題により十分な議論が難しかった。今後はオンライン交流の方法（会話中心ではなく、メールやメッセージ交換を交えながら実施する方法）を検討する。
・1 月中旬に行われたタイ研修では、4 名の生徒が参加した。ダーラー側の対応がとてもよく、探究活動などの取り組みを実施し生徒たちは充実した時間を過ごすことが出来た。

8-2　高専連携協定を締結している旭川福祉専門学校の日本語学科等で学ぶ留学生と、様々な交流を通して異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の育成を図る。

（結果等）
・Global Café (異文化交流プログラム) として、東川国際文化福祉専門学校生との異文化交流会を実施した。生徒が実際に英語のみで外国人とやり取りしたことで、非常に有意義な異文化交流の場となった。

９　広報活動

［生徒募集対策］

9-1　各中学校訪問、進路説明会の参加、各塾訪問など、入学者増に繋がる活動を強化する。

9-2　オープンスクール、中学校別オープンスクール、保護者説明会、部活動体験会、個別懇談による説明会の機会を増やし、きめ細やかな対応を行うことでイメージ向上を目指す。

9-3　ホームページ、ＳＮＳ及びメディア等を通して、本校の情報を逐次公開する。

（結果等）

・広報活動は昨年度に比べ SNS や HP をより活用し、積極的に行うことができた。HP 閲覧頻度は向上傾向にあるので、より数値が上がるように更新頻度向上等に取り組んでいきたい。

・中学校訪問や学校通信「志峯」の作成など、積極的な広報活動が実施されていた。

・永山中と永山南中対象の体験学習会や比布・当麻などの近隣中学を対象にしたオープンスクールは次年度も継続し生徒募集に繋げていきたい。

・保護者相談会は管理職の先生方を中心に昨年よりも実施回数を増やした。その関係もあり保護者の参加者が増え好評であった。

10　その他

10-1　施設設備費等補助金などの外部資金を活用しながら、望ましい学校運営が図れるよう検討を加える。

（結果等）

・今年度も管理運営費補助金に加え過疎区域、小規模校経営改善促進費、JET プログラム活用推進加算が補助金の対象となった。

・例年同様、就学支援金、授業料軽減補助金、旭川入学一時金補助金、旭川市教育推進補助金、旭川市結核健康診断費補助金等の外部資金を獲得した。

・私立大学等研究設備整備費等補助金（私立高等学校等 ICT 教育設備整備推進事業費）が交付された。

・2 年目となる高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金（高等学校ＤＸ加速化推進事業）が交付された。

10-2　引き続き働き方改革（職員間の同一賃金、各種手当、休暇、労働時間等の問題点）及び課外活動のあり方等への対応を検討する。

（結果等）

・次年度から働き方改革の一環として 1 年間の変形労働時間制の導入を決定し、就業規則・給与規則等の見直し、数回にわたる教職員説明会を実施した。

・今後も、引き続き働き方改革及び課外活動のあり方への対応を検討し職場環境の改善を図りたい。

高校の部、以上

Ⅱ　令和７年度事業計画に基づく結果報告（２ 旭川志峯幼稚園）

１　学校組織（改組、再編等）

1-1　子ども・子育て支援制度（施設型給付）の規定に基づき、適切な事務処理を遂行する。

（結果等）
施設型給付の規定に基づき、事務処理、必要書類等の作成に努めることができた。

1-2　保育料等の無償化の規定に基づき、適切な事務処理を遂行する。

（結果等）
無償化の規定に基づき、適切な事務処理等を行うことができた。

２　教育課程（教育目標、カリキュラム編成等）

2-2　幼稚園教育要領をもとに、それぞれの年齢に即したカリキュラムを編成、実施、評価、改善に努め、特色のある教育活動の実施に努める。

（結果等）
年度末に年間の保育カリキュラム内容を見直しを行い、次年度に向けて各学年に即したカリキュラム編成、月案、週案を作成し特色のある教育活動を行うことができた。

2-3　小学校、地域との連携の推進に努める。

（結果等）
・老人施設とのふれあい、交流については、訪問することは出来なかったが子ども達のメッセージ等を DVD にまとめて４か所の施設に届けることができた。
・地域の小学校との交流については、園児と児童が直接交流を行ったり、運動会や学習発表会、参観日の様子を見学することができた。
・農業高校との交流については、お花植えやクレープ作りなどを一緒に行うことができた。

2-4　様々な体験活動や園外保育を通して自然の豊かさや季節感を味わうとともにコミュニケーション能力の育成を図る。

（結果等）
各学年の園外保育については、計画した場所に行くことができた。様々な場所に出かけた際に草花、昆虫等に触れ親しむことにより自然の豊かさを感じたり、季節感を味わうことができた。

2-5　五感を働かせた造形活動に取り組み、感性教育の推進に努める。

（結果等）
主体性を尊重した創造性豊かな感性教育を行なうことができた。

2-6　園庭や運動場、畑など屋外環境の充実を図り、豊かな外遊びによる体育や心の教育の推進に努める。

（結果等）
園庭、運動場、畑それぞれの環境整備と点検を行い、子ども達が好きな遊びを安全に伸び伸びと遊ぶことができる環境設定、保育活動を行うことができた。

2-7　特別支援教育の充実に向け、職員間の実践交流や研修を深め、指導力の向上に努める。

（結果等）
　特別支援教育の充実に向け、引き続き支援児の個々の成長記録を作成するとともに月に一度特別支援会議を行い、教職員全員で課題、支援方法等話し合いを行うことで共通理解に立つことができた。

2-8　農園を活用した栽培活動で知育、徳育、食育の育成に努める。

（結果等）
　農園での活動（栽培、収穫、お料理等）など直接体験を通して季節感を味わうことができた。

３　教育環境（施設・設備、工事計画等）

3-1　運動場（グラウンド）における除草等の環境整備と管理、水はけ整備を行う。

（結果等）
　運動場（グラウンド）の整地、除草剤等の環境整備に努めることができた。

3-2　農園の適切な活用と管理に努める。

（結果等）
農園の管理にあたり事前に計画を立てて整備を行い、色々な作物を栽培し収穫や調理等、食育に活用することが出来た。

3-3　農園の一部を園児が活動（遊ぶ）出来る環境に整える。

（結果等）
　計画通りに農園の一部に人工芝、乗り物専用道路、花壇を作り、屋外での保育活動の場を広げることが出来た。

3-4　園庭芝生の手入れ、草刈りを行い、環境整備に努める。

（結果等）
　園庭の草刈りは定期的に行い、遊びの環境を整えることができた。

3-5　老朽化した暖房器具を計画的に順次取り換える。

（結果等）
　計画通り老朽化した暖房器具（ストーブ）を取り換えることが出来た。

3-6　園庭の環境整備を行う。

（結果等）
園児が安全に過ごすことが出来るように安全点検を行い、適切な保育環境作り、施設整備を行うことができた。

3-7　安心、安全な保育環境作りに向け、施設整備の充実、指導力の向上を図る。

（結果等）
園庭の既存大型遊具の修繕を実施し、併せてクライミング、ロープ機能を追加することで遊びの多様化を図った。

４　研究活動（委託研究事業）

4-1　第６７回北海道私立幼稚園教育研究大会道北ブロック大会他、様々な研修会積極的に参加する。

（結果等）
北海道私立幼稚園教育研究大会ブロック大会については、園の行事と重なっていたため、参加することができなかった。その他の研修会については積極的に研修を受けることができた。

4-2　旭川市立大学短期大学部幼児教育学科の学生に向けて公開保育、研究協議を行う。

（結果等）
・旭川市立大学短期大学部幼児教育学科（４月よりこども地域学科）の学生に向けて公開保育、研究協議を行った。
・保育・教職実践演習では学生達が立案と実践を行い、終了後に学生と共に振り返りの時間の中で学生からの質問に答えたり保育内容の助言を行うことにより指導力の向上が見られた。

4-3　小学校とのギャップを無くすための幼保小連携のあり方についての研究を深める。

（結果等）
旭川市立永山南小学校主催の幼・保・小の連携を深める授業参観と懇談会に参加し、授業を参観後に参加者（幼稚園、保育園等）の方々と懇談会に参加し、小学校との連携を深めることが出来た。

4-4　園内研修の充実を図り、指導力の向上に努めるとともに教育内容の共通理解を深め、教育観の共有化を図る。

（結果等）
月に一度特別支援会議を行い、支援児ひとり一人の課題や指導内容について話し合い、意見交換を行うことができた。園内においては、ケース会議等を行い、スキルアップを図っていくことができた。

５　学生生徒等支援（就職支援、奨学金関係等）

なし

６　点検・評価（自己評価、第三者評価、研修等）

6-1　各行事については、前年度の反省を基に計画を立て、全職員で打ち合わせ、話し合いを行っている。事後は次年度に活かせるように反省記録を残し引き継いでいく。

（結果等）
園行事ごとに前年度の反省を生かしながら計画を立て、事後は準備から当日までの流れを振り返りながら反省を行い次年度に向けて記録を残すことが出来た。

6-2　２学期に保護者アンケートの実施、２学期末から３学期にかけて年度の自己評価を行い、それに基づき話し合いを次年度の教育に活かす。その結果を３月の園だよりに掲載し保護者にお知らせをする。

（結果等）
計画通りに２学期に保護者アンケート、３学期に教諭の自己評価を行った。その結果を３月に保護者宛お便りに掲載した。保護者からは、自然の豊かさや季節感を感じることができる保育内容に関して、教職員がひとり一人の園児へのきめ細やかな関わりについて高い評価をもらった。又、園会議の際に自己評価、保護者アンケートの結果について話し合いを行い、次年度の教育に活かせること、検討が必要なことの話し合いを行った。

6-3　作品展（永山公民館）の際に地域の方、保護者等に意見、感想をもらい教育の充実に活かす。

（結果等）
作品展（永山公民館）の際に芳名帳や感想を記入する用紙を設置することで保護者、地域の方、卒園児の保護者等よりたくさんの意見、感想をもらうことができた。

6-4　常に自己研修に努めるとともに研修会等に積極的に参加し、園内研修で研修内容の交流を行い、教師としての力量を高める。

（結果等）
・月末の職員会議では各行事やひと月の保育活動内容を振り返り、反省点や課題について話し合いを行い、次年度や翌月に活かせることが出来た。又、園児の成長と指導方法等についても話し合いを行い、教職員全体で共通理解を図ることが出来た。
・特別支援教育については、特別支援実践研修会、全教職員によるカリキュラム実践報告、園児ひとり一人の実態や課題を交流し、指導方法等について話し合いを行っている。

7　社会活動（地域貢献、連携、協定等）
なし

8　国際交流（学生生徒間・教員間の交流、連携、協定等）
なし

9　広報活動（学生生徒等募集対策、ホームページ等）

9-1　園開放事業の内容を見直し、教育課程内に位置づけられるよう、指導内容を整理して指導計画を作成する。

（結果等）
園開放事業の充実や向上に向けて活動内容の見直しを行い、新しい保育活動をたくさん取り入れていった。又、より多くの方々に園開放事業での内容を知ってもらうためにインスタグラム、ホームページ等で活動内容を伝えることができた。

9-2　園開放事業を通して幼稚園の教育内容を伝えていく。

（結果等）
・園開放事業の際に園の教育方針、教育内容を伝えたりその方針や内容に沿った保育を計画し、実践することができた。園での教育内容をより多くの方に伝えることができた。
・園開放に参加されたほとんどの親子が年間通して継続的に参加していただけた。
・満３歳児入園については、随時相談を受け、入園についての説明を行っていった。

9-3　私立幼稚園協会主催の作品展（アッシュ）への参加や地域（永山公民館）で作品展、発表会開催等を実施し、幼稚園の様子を保護者や地域住民に知ってもらう。

（結果等）
永山公民館、アッシュにおいて作品展示、永山公民館において発表会を行い、地域住民に教育内容を伝えることができた。

9-4　園だより、学年だより、ホームページ、インスタグラムを通して幼稚園の教育内容、行事の様子、普段の保育の様子、入園に関しての手続き等を更新し、発信いていく。

（結果等）
インスタグラム、ホームページにて日々の教育活動の様子、保育スナップ写真を掲載、園だよりや学年クラスだよりなどで園の教育活動を発信することができた。

9-5　募集ポスター、園開放事業ポスターのレイアウト等を検討し充実を図る。

（結果等）
　募集ポスター、園開放ご案内ポスター、幼稚園要覧内容を教職員間で検討し、より見やすく工夫した。

10　その他

10-1　旭川市立大学短期大学部、永山の小中学校、高等学校との連携が今後更に深まるよう努力をしていく。

（結果等）
・永山地域の小学校とは、低学年の担任教諭と連絡を取りながら交流の機会を多く持つことができた。
・旭川市立大学短期大学部のこども地域学科とは授業の他にボランティアで園行事の手伝い、お誕生会の際の出し物などに協力いただいた。
・農業高校との交流については計画通り行うことができた。

10-2　教職員の特性が生かされる運営に努め、組織の活性化を図る。

（結果等）
　運営にあたり、分掌組織図に基づいて教職員一人ひとりが生かされるような役割を持つことで責任をもって取り組むことが出来た。又、教職員会議の課題等についてそれぞれが自分の意見を出し合い、話し合える場を作ったりすることで組織の活性化を図った。

10-3　老人福祉施設の永山園、永山亭、なの花、福寿草、医療型児童発達センターの愛育センター、各ディサービスとの連携、交流を図っていく。感染症予防のため訪問出来ない場合は、園児たちの様子（歌、手遊び、体操等）を DVD にし観てもらうよう交流の工夫を図る。

（結果等）
　感染症予防のため、訪問して交流することはできなかったが、園の方で子ども達が歌ったり手遊びを行っている様子の DVD を作成し、各施設に届けて見てもらうことができた。

10-4　たいせつネット、旭川市巡回相談等を利用し、支援が必要な園児に適切な対応が行えるように努める。

（結果等）
　たいせつネット、旭川市巡回相談等の利用は無かったが、旭川市立大学短期大学部こども地域学科の熊田先生による言葉の発達相談を数回行うことができた。

10-5　教職員の危機管理意識を高めるため、全職員で定期的に見直しを行っていく。

（結果等）
・春と秋に避難訓練を行い、火災が起きた際（保育中の火災、自由遊び中の火災）の避難行動、注意事項等を指導していった。その他、実際に消防の方にきていただき、１１９番への通報訓練、初期消火訓練を行った。
・園会議の際に教職員全員で危機管理マニュアルを見直し、危機管理の意識を高めた。

10-6　スクールバスについては、旭川観光バスに委託している２台のスクールバスを１台にし、新しい小型バス（幼児用のバス）を１台と既存の小型バスを１台リースで利用していく。

（結果等）
　スクールバスについては、旭川観光バスに委託を１学期末で解約し、幼稚園所有の小型バス（ハイエース）を既存１台、新車１台で運行するようになった。

10-7　スクールバスの運行経路の範囲、運行体制の見直しを図る。

（結果等）
・スクールバスの運行経路の見直しを行い、よりスムーズに運行できるようにしていった。
・運行後の園児の乗車降車確認、人数確認をしっかり行っていった。

10-8　園支援システム（バスキャッチ）の活用。（バス運行管理、保護者へのメール連絡、園児の出欠管理、特別支援児の連絡帳等）

（結果等）
園支援システム（バスキャッチ）を導入し、バスの運行管理、保護者への連絡メール、園児出欠、預かり保育申込み、指導要録等、システムを統一することにより教職員の仕事の効率化を図ることができた。

10-その他

旭川志峯高等学校　チャンハンナ先生との交流を行い、遊びの中で自然に外国語に触れたり、歌やゲーム、身体を動かす活動、絵本等を取り入れ、楽しみながら異文化に触れることができた。

幼稚園の部、以上

Ⅱ　令和７年度事業計画に基づく結果報告（３ 旭川情報ビジネス専門学校）

１　学校組織（改組、再編等）

1-1　管理職と教職員の連携による「学校力」強化を目指す

① ５年後、１０年度を見据えた学校組織改革

② 教職員が主体的に組織のあり方を考える環境作り

（結果等）

・「学校力」強化に向けた取り組みについては、管理職と教職員の連携を核とし、中長期的な視点での主体性を引き出す環境作りに注力し、協議を重ねてきた。

①　持続可能な学校経営と教育成果の創出

5 年、10 年先を見据え、IT 技術の進化や少子化といった外部環境の変化に即応できる体制構築を目指した。既存の教育資産の維持（守り）と、新時代への適応（攻め）の両立を軸に検討を進めた。

具体的な成果として、独自学習システム「IT ワールド」を徹底活用し、全学的な「IT リテラシーの底上げを図った結果、国家試験における顕著な成果が得られた。IT パスポート試験」の 2026 年 3 月 31 日時点における 2 年生に限った現役合格者数は 7 名（前年度の 4 名に比べると 1.75 倍）と大幅に伸長した。さらに、その基礎を土台として、より高度な「応用情報技術者試験」においても 3 名の合格者を輩出。一貫した指導体制が実を結んだ結果といえる。

②　組織文化の変革と学校経営の活性化

現場の教職員による提案と管理職の迅速な決断を重視する、柔軟な意思決定プロセスを導入した。コースの枠を超えて教職員が「自分事」として学校運営（広報、学生指導、ICT 教育など）に参画する文化の醸成に努めている。その一環として、長年固定化していた校務分掌の刷新（分掌替え）を実施。組織に新たな視点を取り入れることで、学校経営の活性化へと繋げた。

２　教育課程（教育目標、カリキュラム編成等）

2-1　情報処理技術者国家試験等の合格率向上を図る指導体制・指導法の確立

① 学生が就職を意識した取得意義の共有と指導体制の確立

② ＩＴパスポート、基本情報技術者試験及び応用情報技術者試験合格者増へつながる指導体制の構築

（結果等）

① 基本情報技術者試験の通年化に向けて、試験の実施方式、出題範囲などの変更に伴い、従来どおりの内容となる秋期と変更となる春期に対応した授業展開を行った。

また、学生には春期の新方式に対応できるように、関連授業と連携して早期に説明及び対策を実施した。

② 基本情報技術者試験対策強化として、教員 2 名を配置し 2 クラス編成としたことにより科目 A 試験免除者の学習効率をよくした。下位クラスでは、科目 A 試験を重点的に学習できる内容とし、春期の試験を目標に基礎を固めた。結果としては基本情報技術者試験に新たに 18 名が合格した。また、IT パスポート試験には 8 名が新たに合格した。

3/31 現在の合格者数	1 年生(27 名中)	2 年生(36 名中)
応用情報技術者	0 名	3 名
基本情報技術者	4 名	14 名
IT パスポート	1 名	7 名

2-2　マイクロソフトオフィススペシャリスト試験の合格率を高める指導体制づくり
合格に対する学生の意識の高揚や指導体制の確立（合格率１００％を目指す）

（結果等）

・MOS2019・365 に対応した授業計画に沿って授業を行った。

3/31 現在の合格者数	1 年生(27 名中)	2 年生(36 名中)
Word	27 名	36 名
Excel	26 名	36 名
Power Point	未実施	36 名
Access	未実施	36 名
Word Expert	2 名	5 名
Excel Expert	未実施	4 名
Outlook	未実施	1 名

※学生数は年度末の人数

2-3　職業観の育成や勤労意欲の高揚を重視したキャリア教育の推進
① 企業との積極的な連携（すでに連携している企業の他、新規連携企業との協同事業の推進）

② インターンシップなどの活用による勤労観・職業観の涵養

（結果等）

① 1 年生を対象に直接質問できる機会を提供した。

実施月	内容
11 月	IT 業界の職種詳細（テストエンジニア）
12 月	IT 業界の職種詳細（プログラマ　社内開発以外の選択肢）
1 月	IT 業界の職種詳細（プログラマ、ネットワークエンジニア、運用・保守エンジニア）
3 月	IT 業界の職種詳細（プログラマ、システムエンジニア、製造職）

これらの取り組みにより、学生は職業観や勤労観を育むことができ、早い段階から意欲的に就職活動に取り組む姿勢が見られた。

② 対象学生に合わせて就職研修の内容を見直し、必要な活動内容の明確化や過去のベストプラクティスから学ぶセミナーの実施、エントリーシート作成セミナーなどを実施した。また、就職活動の早期化に対応するため個別面談・保護者面談を充実させ、学生間で活動状況を情報共有した。それにより、早期から意欲的に活動できることにより、内定へ繋がった。

2-4　教育課程の大幅な見直し
① ＩＴ関連教科を学ぶ専門学校生にふさわしい教育課程の編成

② ＡＩの進化、経済のグローバル化に対応した教育課程の編成

（結果等）

① 授業に外部講師を活用することで、学生は理解を深めることができた。

② プログラミング授業では、従来どおり基礎的な技術習得を重視するとともに、単に AI を使えるだけでなく、AI を活用して成果を生み出せる人材の育成に努めた。その結果、卒業研究においては、学生自ら課題を見つけ、AI を活用したアプリケーション制作に取り組むなど、主体的な学びの成果が見られた。

2-5　企業との連携を図る教育課程の編成
① 職業実践専門課程を意識した企業との連携

（結果等）

旭川市内に拠点を置く首都圏の IT 企業で活躍している者を非常勤講師として招き、IT 業界で求められている人材に必要な能力の育成に力を入れた。

３　教育環境（施設・設備、工事計画等）

3-1　情報処理施設の充実

① ３０１教室ＰＣの最新化（国の施設設備補助金を申請）

（結果等）
301 教室の PC を更新し、授業で使用する各種ソフトウェアについて、旧 PC では動作不良が見られたものの、円滑に利用できる学習環境を整備した。また、オープンキャンパスにおいても体験授業用教室として活用し、来校者への教育環境 PR にも寄与した。

3-2　校舎の施設・設備の老朽化による弊害の解消

① エレベーター改修工事の実施

（結果等）
・エレベーター改修工事は、校舎竣工時に設備され、これまで 40 年間事故なく安全に運行してきたが、今後は製造年の関係から修理補修に必要となる主要部品の供給が受けられなくなるとの理由から、大規模改修工事を実施し、今後の安全運行に備えた。
・402 教室の床改修工事を実施し、老朽化により生じていた損傷や使用上の支障を解消した。これにより、安全性及び快適性が向上し、学生が安心して学習できる教育環境の整備が図られた。

3-3　最新ソフトウェアの更新（ＡＩ対応ソフトウェアやオンライン学習ソフトウェアの導入）

（結果等）
・Adobe クリエイティブクラウドを継続して導入した。
・チェンジビジョン Astah を継続して導入した。。

４　研究活動(研究体制、受託研究事業等)

4-1　企業による校内研修の取り組みの実施

① 職業実践専門課程設置に向けた各種企業研修への参加促進
② 企業による校内研修会の実施促進（学生及び教員のＩＴスキルの向上やキャリア教育等）

（結果等）
① 北専各連の教員能力認定研修会に 2 度（各 1 名）派遣した。
② 企業による校内研修会は行われなかった。

4-2　旭川イノベーションセンターとの連携

① 学生のイベントへの積極的な参加への奨励
② 旭川ＩＣＴ協議会参加企業との連携強化（連携企業の拡大化）

（結果等）
①　学生のイベントへの参加はなかった。
②　昨年度企業連携授業を請け負ってくれていた会社の紹介により、今年度も企業連携授業を行うことができた。

５　学生生徒支援（就職支援、奨学金関係等）

5-1　「求人情報ネットワーク」の充実と活用

① 同窓生関連企業との連携拡大（求人情報の充実）
② ホームページを活用した企業向け広報活動の充実
③ 各種広告媒体による本校のＰＲ活動の充実（予算の確保が必要）

（結果等）
①　同窓生が就労する企業より求人があり、内定全体の約 40%を占めている。
②　ホームページからの問い合わせが多数あった。
③　昨年同様にＰＲ活動を行った。広告媒体に対する追加の予算は取らなかった。

5-2　積極的な企業訪問の継続（道内、本州企業）

① 企業へのアプローチの強化（道内外企業訪問の重点化）と予算化

② 担当職員の増員と予算化

（結果等）
① 企業との関係維持にはオンラインミーティングやメールを活用し、定期的な情報共有や意見交換を行った。これにより企業の最新状況を把握し、学生にとって有益な情報を提供できた。
② 担当職員の増員を行わなかった。一部の職員への負荷が増大傾向になっている。

5-3　学生に対する就職支援

① 企業訪問やインターンシップなどの活用

（結果等）
1年次からオープンカンパニーやインターンシップに参加し、早期内定に至った。

5-4　就職が困難と予想される学生への就職支援の拡充

① スクールカウンセラー導入の検討

（結果等）
スクールカウンセラーの導入は行われなかった。

6　点検・評価（自己評価、第三者評価、研修等）

6-1　学校評価委員会及び教育課程編成委員会の企業委員による学校評価や教育課程評価の実施

① 学校評価委員会の企業員による、学校経営の改善

② 教育課程編成委員会の企業委員によるカリキュラムマネジメントの充実

③ 校内委員（校長及び教員）による学校経営や教育課程の評価の実施

（結果等）
① 計画通り実施した。
② 計画通り実施し、教育課程改善の視野を広げることができた。
③ 計画通り実施した。

7　社会活動（地域貢献、連携・協定）

7-1　学生ボランティア活動の推進（地域清掃等）

（結果等）
ボランティア清掃、雪像制作ともに、夏季・冬季休業と試験日程の関係から中止とした。雪像制作は日程的に今後も実施しないこととした。

7-2　学生の地域イベントへの積極的な参加

（結果等）
今年度は実施されなかった。

7-3　高等学校への出前授業・進路講話、キャリア教育等の連携事業の推進

（結果等）
道内高校への職業体験学習が実施された。

高校名	日付	学年	内容	人数
上川高校	10月21日	1年	職業体験学習	7名

7-4　中学生を対象とした「総合的な学習の時間」の受け入れの継続

（結果等）

・北専各連職業体験講座として、市内・市外あわせて 10 講座を実施し、合計 156 名の「総合的な学習の時間」体験学習の受け入れを行った。

・人員の配置ができず、一部受け入れをお断りした。

・中学生が IT 分野を身近に感じられるよう、プログラミング体験では注文画面における計算処理、デザイン体験では各校の校章を用いた壁紙画像の制作や画像加工を中心とした講座を開講した。また、講話では、IT 業界の仕事内容や魅力、その分野で活躍するための進路として専門学校という選択肢があることを伝えた。

中学名	日付	学年	人数
旭川市立永山中学校	7 月 16 日	2	20
剣淵町立剣淵中学校	7 月 17 日	2	6
富良野市立富良野西中学校	7 月 22 日	2	12
旭川市立旭川中学校	8 月 27 日	2	16
旭川市立春光台中学校	8 月 28 日	2	20
旭川市立忠和中学校	9 月 24 日	2	20
旭川市立永山南中学校	9 月 25 日	2	20
旭川市立東光中学校	10 月 3 日	2	20
幌加内町立幌加内中学校	10 月 16 日	2	3
砂川市立砂川中学校	10 月 22 日	1	16

7-5　校舎貸与を行い、高校生や地域住民の本校への理解度の向上

（結果等）

・高等学校演劇グループの練習会場として校舎貸与を行った。

日時	貸与先	内容
5 月 7 日～5 月 23 日	劇団氷点華 （市内高校生劇団）	練習場所

8　広報活動（学生生徒募集対策、ホームページ等）

8-1　入学者４０名を確保するための広報活動の工夫・充実と予算化

① 外部団体・各高等学校主催進路相談会への積極的な参加

② オープンキャンパス参加者の入学率の向上（目標９０％）

③ 管内の高等学校への定期的な訪問による広報活動の充実

（結果等）

①　旭川市内進路相談会を中心に参加した。

②　体験入学参加者の入学率向上のため、個別相談を積極的に行った。入学対象者（高校 3 年生以上）参加者の入学率は 61％と、目標の 90％を大きく下回った。

複数回参加学生のうち、入学対象者の入学率は 86％であった。

③　市内各高校、士別方面、深川方面の高校及び上川高校を訪問し、募集活動を行った。

市内各高校、上川高校等に対し指定校推薦制度を引き続き活用している。

④　引き続き学校のイメージキャラクターを使用（原案：卒業生）した。パンフへの使用はもちろん、生成 AI を利用してイラストを作成し、学校 HP への掲載を大幅に増やしてイメージの向上を図った。

8-2　上川管内・旭川市内高等学校との連携強化と予算化

① 旭川志峯高等学校との連携強化

② 上川管内及び旭川市内高等学校への募集活動の積極的な取り組み

（結果等）

① 旭川志峯高校で 1 回の進路講話が行われた。旭川志峯高校から 3 名の入学生を迎え入れた。

高校名	日付	学年	内容	人数
旭川志峯高校	6 月 4 日	3 年	単独ガイダンス	80 名

② 市内各高校及び士別方面、深川方面の高校、上川高校を訪問し、募集活動を行った。

・ 市内各高校、上川高校等に対し指定校推薦制度を引き続き活用している。

8-3　学校見学会等の受け入れ事業の創意工夫

① 日常的な学校見学の受け入れ、広報、掲示物の工夫

② 高校生に道北唯一のＩＴ関連専門学校というアドバンテージの浸透

③ 特色ある学校見学会の実施による参加者の増加を目指す（企業や著名な卒業生）

（結果等）

①　計 6 回のオープンキャンパスと学校説明会を開催した。

印刷物、デジタルサイネージ、大画面 PC を使って告知等を展開した。巨大ポスターを作成し本校の一番大きな窓ガラスに掲示した。

昨年度と比べ延べ参加人数は 5 名増加、実参加人数は 1 名減少した。

開催回	開催日	参加人数	うちリピーター人数
第 1 回	5 月 1 日	11 名	
第 2 回	6 月 14 日	16 名	2 名
第 3 回	7 月 19 日	19 名	8 名
第 4 回	8 月 23 日	20 名	9 名
第 5 回	11 月 8 日	12 名	6 名
学校説明会	2 月 14 日	10 名	0 名
第 6 回	3 月 14 日	7 名	3 名
合計（延べ）		95 名	27 名
合計（実人数）		68 名（うち入学対象 38 名、入学 23 名）	

②　参加人数が多かった 7 月の回においては、在校生にアシスタントをしてもらい、好評であった。

③　飲み物と菓子は配布持ち帰り。体験授業を行い、終了後は希望者を募り個別相談の時間を設け、入学についての相談を行った。

8-4　インターネットによる募集活動の展開

① ホームページのタイムリーな更新と内容の充実

② ＳＮＳを活用した広報活動の充実

③ インターネット関連広報サイトの活用

（結果等）

① ホームページは引き続きイラスト等を用いて作成した。

② SNS 広報活動への教職員の人員配置はされなかった。研修旅行では参加学生に旅行中に当番制で Instagram にて写真や報告を投稿してもらい、本校に興味のある学生が検索した際に閲覧できるようにした。

③ 電話、メール、ＨＰからの資料請求への対応は迅速に行われた。

９　その他

9-1　学校行事の実施

① ２０２０年度より体育祭の代替として実施していた e-sports 大会等、学校全体で取組む行事の実施

（結果等）
学生主導による企画、運営、進行を行い、全校で親睦を深めることができた。2 年生から 1 年生の協力のもと会場設置、大会の実施を通じて情報の共有や対人コミュニケーションにおいても成果が感じられた。

9-2　国内研修旅行の実施

① ２０２３年度から実施している国内研修旅行の実施継続

（結果等）
国内研修を 2 泊 3 日の日程で実施し、東京の IT 企業訪問等を行った。団体行動の大切さ、スケジュールとしおり作成などで、管理能力の向上とグループ内での話し合い等の重要性を学ぶ等、事前準備においても大きな成果があった。

以上、専門学校